

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年五月度 入選句 (投稿総数千百五十句・一般投句数五百五十五句)

選者 大堀 武直

特選

黒板に感謝の二文字花こぶし

不破郡垂井町 久保田 紘義

卒業式を間近に控え、担任の先生にお世話になった気持ちを表すために皆で教室の黒板に
チョークで大きく「感謝」と書いた。

ちょうどこの時期、辛夷の花が咲く。白色の香気のある六弁花で、すがすがしい美しさに輝く。びつたりの季語である。

花盛り今日は大盛りオムライス

大垣市 鶴田 信子

花盛り、大盛り、オムライスと同じ文字、同じ音を繰り返す。見た目にも、声を出して読んでもリズムカルな句である。

満開の桜を見ながら、大好きなオムライスが食べられて、至福のひとつときであったであろう。

篠笛の音色に染まるおぼろ月

愛知県知多市 日比 光子

篠笛を聞きながら、おぼろ月を眺める。「源氏物語」の世界にいる気分になる。月の朧に霞んだ状態を「音色に染まる」と、詩的に表現したところが巧みである。

秀逸

柝が入る子供歌舞伎の春祭

大垣市 久保田 悟義

花冷えや一人遊びの石を積む

大垣市 大西 誠一

日脚伸ぶ針の遅れし古時計

不破郡垂井町 富田 実郎

朧夜の空に動かぬ観覧車

大垣市 早崎 美弥子

夏の風邪方程式の解けぬ夢

大垣市 秋山 くに子

捨てられぬ帽子いくつか傘雨の忌

大垣市 秋山 くに子

入学式足ゆらしてはふり向きぬ

揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

降る花や言の葉多くあふれ出づ

三重県桑名市 森 美音

薫風や挖鉢の声乗せて来る

静岡県静岡市 内藤 知

薫風や歩きながらの二重唱

愛知県弥富市 川畑 淑子

入選

行く春や身軽にしたる旅支度
古民家や雨に卯の花匂ふ垣
遊ぶ子に菜の花明りいつまでも
髪少しアップしてみる夕薄暑
春光に委ねる一日むすびの地
美濃人と昔を語る花の昼
上げ舟を吊す輪中や柿若葉
臥す妻にときどき通す若葉風
雄大な富士の八の字聖五月
空拡げ空を高めて鳶の恋

掛斐郡大野町	藤田	涼子
大垣市	田中	雅子
大垣市	大西	誠一
大垣市	片山	洋子
滋賀県彦根市	前川	菅子
福井県越前市	山崎	越堂
大垣市	村田	通夫
不破郡垂井町	服部	真六
大垣市	高木	治子
安八郡神戸町	後藤	和朗

入選

春風やガイドとなぞる句碑の文字
初桜朝市のものみな淡し
癒えし人囲みて話す春田かな
ぼうたんや隣の村の鐘の声
相席の椅子の固さよ花の冷
土筆摘む隣り村より昼チャイム
山笑ふ声の聞こえて来そうな日
ルピナスや少女らの夢果てしなく
白ければ白を誉めゐる牡丹かな
夏まつり笛の音人を急がせて

関市	清水	和弘
東京都世田谷区	関戸	信治
不破郡垂井町	國枝	一子
安八郡輪之内町	野村	照子
大垣市	名和	よちゑ
大垣市	島岡	嘉明
不破郡垂井町	臼井	梅乃
大垣市	新町	恵子
大垣市	矢橋	郁子
大垣市	川瀬	スマ子

選者吟

走り茶を大人の味と言ふ子供

武直